本文と合わない文をえらぼう

小6／本文を読んで、本文の内容と合わない文を1つえらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

1　気温の変化を よんで、本文と合わない文を1つえらびましょう。

ある調査によると、日本の平均気温は100年あたり約1.3度上がっています。特に1990年代以降は、暑い日の数が増えました。筆者は、気温が上がるのをおさえるには、家庭での電気の使い方を見直すことが第一歩だと述べています。

1. 100年あたりおよそ1.3度上がった。
2. 暑い日が増えたのは1990年代から後のこと。
3. 筆者は電気の使い方の見直しを求めている。
4. 筆者は第一歩として学校での取り組みを挙げている。

2　「いただきます」の説明を よんで、本文と合わない文を1つえらびましょう。

「いただきます」は、食べ物の命や作ってくれた人への感謝を表す言葉だと言われます。筆者は留学生にこの言葉を説明したとき、英語にぴったりの言葉が見つからなかったと書いています。そして、言葉には文化がこめられていると考えるようになりました。

1. この言葉は感謝を表すと言われている。
2. 筆者がこの言葉を説明した相手は外国の先生だった。
3. 筆者は言葉と文化の結びつきに気づいた。
4. 英語にはぴったり合う言葉が見つからなかった。

3　遠足の行き先を よんで、本文と合わない文を1つえらびましょう。

クラスで遠足の行き先を話し合ったとき、山派と海派に分かれました。山派のゆいさんは、両方の意見を合わせて「海の見える山」を提案しました。その案に全員が賛成し、筆者は意見のちがいが新しい答えを生んだと感じました。

1. 「海の見える山」を提案したのは海派の人だった。
2. 行き先について意見が二つに分かれた。
3. 筆者はちがう意見から新しい答えが生まれたと感じた。
4. 「海の見える山」の案に全員が賛成した。

本文と合わない文をえらぼう

小6／本文を読んで、本文の内容と合わない文を1つえらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

1　紙ひこうき大会を よんで、本文と合わない文を1つえらびましょう。

筆者は小学生のころ、紙ひこうきの大会で3回続けて最下位になりました。そこで、飛んだきょりを毎回ノートに記録し、羽の角度を少しずつ変えてみました。4回目の大会では2位になり、記録することの大切さを知ったといいます。

1. 筆者は記録することの大切さを学んだ。
2. 筆者は大会で3回続けて最下位だった。
3. 4回目の大会で筆者は優勝した。
4. 筆者は羽の角度を変えて試した。

2　村の山の決まりを よんで、本文と合わない文を1つえらびましょう。

ある村では、昔から山の木を切りすぎないよう、切ってよい木の数を村の決まりで定めてきました。この決まりは三百年前の記録にも残っています。筆者は、この決まりが土砂くずれから村を守ってきたと考えています。

1. 決まりは山の木を切りすぎないためのもの。
2. 決まりは三百年前の記録に見られる。
3. 筆者は決まりが村を災害から守ったと考える。
4. 決まりでは植える木の数を定めている。

3　見出しの実験を よんで、本文と合わない文を1つえらびましょう。

ある実験で、同じニュースを見出しだけ変えて二つのグループに読ませました。「危険」という言葉を入れた見出しでは7割が「心配だ」と答え、入れなかった見出しでは3割でした。筆者は、言葉の選び方で受け取り方が変わると述べています。

1. 「危険」の入らない見出しでは3割が心配だと答えた。
2. 「危険」を入れた見出しでは半数が心配だと答えた。
3. 筆者は言葉の選び方が受け取り方を左右すると言う。
4. 二つのグループは同じニュースを読んだ。

本文と合わない文をえらぼう

小6／本文を読んで、本文の内容と合わない文を1つえらびましょう

なまえ ＿＿＿＿＿＿＿＿

ひづけ ＿＿＿＿＿＿＿＿

1　一冊の本を よんで、本文と合わない文を1つえらびましょう。

筆者は中学生のとき、図書館で南極観測隊員の日記を読み、寒さの中で協力し合う姿に心を打たれました。その本がきっかけで、大学では気象を学びました。今は、読書は知らない世界への入り口だと考えています。

1. 本がきっかけで筆者は気象を学んだ。
2. 筆者は読書を知らない世界への入り口と考える。
3. 筆者がその本を読んだのは小学生のときだった。
4. 筆者は南極観測隊員の日記を読んだ。

2　夕焼けの問いを よんで、本文と合わない文を1つえらびましょう。

ある研究者は、子どものころに「なぜ夕焼けは赤いのか」と父にたずねましたが、答えはもらえませんでした。その問いを持ち続け、大人になって光の研究者になりました。筆者は、すぐに答えが出ない問いこそ大切にしたいと述べています。

1. 研究者は子どものころその問いを母にたずねた。
2. 研究者は大人になって光を研究した。
3. 研究者の問いは夕焼けの色についてだった。
4. 筆者は答えがすぐ出ない問いを大切にしたいと言う。

3　地域のそうじ活動を よんで、本文と合わない文を1つえらびましょう。

地域のそうじ活動に、昨年は30人が参加しました。今年は小学生が呼びかけのポスターを作ったところ、参加者は75人に増えました。集めたごみの量も、昨年の約2倍になりました。

1. 昨年の参加者は30人。
2. 今年の参加者は昨年の3倍になった。
3. 呼びかけのポスターを作ったのは小学生。
4. 集めたごみの量も昨年より増えた。